

サービスマーケティングの活動を通して、学んだこと、考えたこと

活動先：NPO 法人 ひだまり

今回サービスマーケティングの活動で『ひだまり』で活動させていただいた。まず活動の前に、自分たちのやりたいこと、できること、目標を考えた。みんなで外へ散歩をしたい、地域の子どもたちへ習字を教えたい、どのようにして地域とのつながりを持っているのか、などたくさん話し合った。ひだまりとの事前のやりとりも大変だった。書類を送り、必要な検査を受けたりした。

活動に入るとグループ6人で活動することではなく、2～3人での活動になった。最初の活動は愛フェスのお手伝いだった。ひだまりのブースでスタンプラリーのスタンプを押ししたり、写真を撮ったりしていた。障害児との交流もできた。障害児は明るく、私たちに気軽に話しかけてくれた。正直私は驚いた。こんなに話ができるのだと初めて知った。今まで関わりを持つ機会がなかったので、この体験は楽しいものになった。そのあと『降りてゆく生き方』を鑑賞し、死ぬということ、生きるということ、生き方を考えさせられた。

その後の活動は、ひだまりでのデイサービス、喫茶ひだまりのお手伝い、認定調査内容の変更に伴う研修への参加、障害児・者への料理教室の参加だった。

デイサービスでは、高齢者との会話が1番悩んだことだった。何を話していいのかわからず、隣にいるだけの存在になっていた。しかし、話をするだけではなく、隣にいて安心してくださる利用者さんもいるんだということを教えていただいた。

私はレクリエーションをさせていただく機会を与えてもらった。何をしたら喜んでもらえるのか、お金をかけず、どのようなことができるか考えた。その中で1番の案がパズルだった。何回でも楽しめるし、子どもも大人も楽しめる。そしてピースの数を変えて、難易度を高くしたりと、工夫がたくさんできた。実際にやっていただいたが、パズルを知らないという人がたくさんいて驚いた。しかしやり方を教えると、みんなパズルをとっても楽しんでくださった。私はすごく嬉しかったし、作ってよかったと思った。そのあとも、絵を描いて当てるクイズの司会をした。司会をするのは思ったほど簡単ではなかった。場を盛り上げることが難しく、絵が苦手だという利用者がほとんどで積極的に参加してもらえなかった。司会を職員の方にバトンタッチし、様子を見てみると、さっきまで苦手だからと言っていた利用者が、職員の方に促されると恥ずかしがりながらも絵を描いた。職員の方の盛り上げ方、進め方は本当に上手で勉強になった。

喫茶ひだまり、障害児・者への料理教室では、障害児の見守り、介助をさせていただいた。社会へ出るための訓練だから、私はその子より上の立場で、仕事を教えたり、だめな事はだめと厳しく接してくださいと言われた。社会へ出た時の厳しさ、自立への1歩を踏み出している障害児、その家族に私は考えさせられた。障害児が一人で生きていくにはまだ、この社会は生きにくいのではないか。そんな障害児・者、その家族がこの社会にどれほどいるのだろう、と初めて考えた。私にはまだ考えることしかできない。障害者福祉に

ついて勉強をしてみたいと思えた活動になった。

研修では、認定調査の現場、実際にどのような調査をし、どのような基準なのか、知らないことばかりのお話を聞くことができた。一緒に参加させていただいた職員の方に、現場のお話も聞けた。介護認定への疑問、不安、そういったものが浮かんできた。今の介護認定で、受きたいサービスが受けられる人はどのくらいいるのだろうか。このままでいいのだろうか、と将来の高齢者福祉に対する不安を感じた。

今回のサービ斯拉ーニングの活動を通して、私の福祉への関心の高まり、課題がたくさんあった。福祉について本気になって考え、体験できたことは私にとってとてもプラスになった。もっと福祉を学びたい、そして自分になにができるのかを考えたいくなった。

もう1つは、自分のやりたいことを実現、実行することの難しさを学んだ。実現、実行には、準備と計画がとても大切だということが分かった。

これからの福祉に対する考えが変わった活動になった。